

## 観光社会資本の事例

テーマ	四万十川多自然型川づくり(四万十川フィールドミュージアム)
-----	-------------------------------

### 【施設の状況写真】



百笑箇所(低高水護岸)

百笑箇所では、既設低水護岸並びに高水護岸に土を緩やかに被せたり、流れのある所は小さな杭を利用した伝統工法で自然を復元し、色々な生物が住みやすい環境となるよう配慮しました。

赤鉄橋周辺は四万十川下流域における代表的な場所であり、四季を感じながらサイクリングの出来る自転車道が整備されるなど、地域住民の憩いの場として親しまれています。

坂本箇所は、潮が満ち引きする所で、ツガニやテナガエビ等様々な生物が住んでいます。そのため、コンクリートブロックと大小の石を組み合わせ、洪水に対して強く、自然に対して優しい工法で整備しました。

当箇所は、四万十川観光の拠点として多くの観光客にも親しまれている場所で、サイクリングの周遊コースにもなっており、観光客等に四万十川らしい景観を提供しています。



坂本箇所(低高水護岸)

### 【施設の利用写真】

明治末期から昭和30年代まで四万十川流域の人々の生活に生きていた舟母船(せんばせん)、1日に100隻以上の帆をかけた舟母が上り下りし、四万十川の歴史の中で一番光って元氣な時代でした。現在では、観光屋形船として利用されています。

四万十川の景観の一部として自然と調和が図られた多自然型川づくりにより、訪れる観光客の心を和ませてくれます。



四万十川観光屋形船

今年で第3回を迎えた「四万十川ラジコン水上機フェスティバル」を眺める観客の様子です。

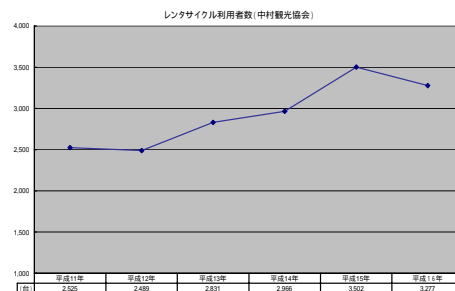
四万十川らしい景観に配慮した多自然型川づくりにより、毎年全国から訪れる多くの参加者や観光客に四万十川の広大な自然を感じて頂いています。



下田箇所(低高水護岸)

### 【観光資源としての利用状況】

四万十川は「日本最後の清流」として知られ、多くの観光客が訪れる。四万十川の多自然型川づくりについては、訪れる人々へ、四万十川の景観として提供されている。また、当該区間においては、観光屋形船の利用をはじめ、四万十川を中心としたイベントの会場としても使用されている。



テーマ	四万十川多自然型川づくり(四万十川フィールドミュージアム)
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 四万十川多自然型川づくり</p> <p>所在地 高知県四万十市</p> <p>事業名 直轄河川改修事業(多自然型川づくり)</p> <p>事業主体 国土交通省 ( 自転車道の整備は、高知県による単独事業)</p> <p>事業期間 H2～</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>四万十川は、日本国民共有の財産として「四万十川らしさをいつまでも守っていきたい」との期待が大きく、色濃く残された自然景観の修復や多様な生態系の保全に貢献しているとともに、各堤防への護岸補強並びに高水敷幅の適正な確保により、地域の治水安全度の向上を図っている。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】中村河川国道事務所公式ホームページ <a href="http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/">http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/</a></p>	